

食器外製品の開発として、ガーデニンググッズではフェンス廻り製品、女性を対象とした製品としてキルトグッズの開発を行った。

また、有田焼人形のブランド確立を目指し、節句人形の開発とこれらに関連し、子供用食器の開発を行った。

肥前地区の陶磁器産業は、高度成長期以後業務用和食器を中心とした生産を行ってきたが、旅行形態の変化等による旅館業の不振、外食形態の変化による食器需要の減少により低迷が続いている。

ライフスタイルの変化に伴う食器需要の減少も日用食器の不振に繋がっており安価な外国製品との競合もさげられない現状である。

このような状況下において、16年度は、新たな陶磁器の市場の開拓を目的として、食器外製品の開発に取り組んだ。また、大有田焼振興(協)、エクステリア研究会への支援として、展示会への出展をとおり、市場開拓を行った。

ノベルティ製品に関しては、研究会を立ち上げ、有田焼人形のブランド確立を目的とした人形製品の開発として雛人形・五月人形の開発に取り組み、またこれらに関連して、「お食い初め食器」等子供用食器の開発を行った。

(1)ガーデニンググッズ製品の開発

1.はじめに

エクステリア関連部門では、国内で5千億円規模の市場があり、その中でガーデニング関連産業がとくに伸びを示していた。このような背景において平成11年度から有田焼のガーデニンググッズ製品の開発に取り組んできた。

16年度は、エクステリア研究会に対してのエクステリア関連業界より提案を受け、フェンス廻り製品の開発を行った。

2.意見交換、視察

九州北部・山陽地方に所在するエクステリア関連業界のネットワークとエクステリア研究会による製品開発に関する意見交換を行い、これに加え視察調査を行い有田焼エクステリア製品の方向性を模索した。

意見交換会:平成16年4月7日 センター中会議室

エクステリア関連施工業社、ガーデニング関連小売業社6社とエクステリア研究会メンバー5社、大有田焼振興協同組合及び窯業技術センターによる製品開発についての意見交換。

視察・調査:平成16年5月16日 福岡県内

(株)エクシス福岡支店、福岡市西区新興住宅地・ウエストヒルズ、HIT香椎住宅展示場、(株)グランド工房新宮店・宗像店の現状視察を行い(株)グランド工房社長・デザイナーとの意見交換を行った。

3.製品開発の方向性

エクステリア製品の多くは、施工を伴い最終消費者に供給される。このため、業界からの提案を受け試作を行い、施工業者にプレゼンテーションをする形をとった。

アイテムは照明付き表札及び塀面スクリーンの2種類で、エクステリア研究会メンバーによる加飾のバリエーションをもって構成した。

4.試作

照明付き表札、スクリーンともにサイズの指定があり、双方ともすかし彫りと絵付けによる加飾の展開をするため、試作段階においては、型には透かし彫りを入れず平板にし、各メンバーとのデザインの検討を行い、サン

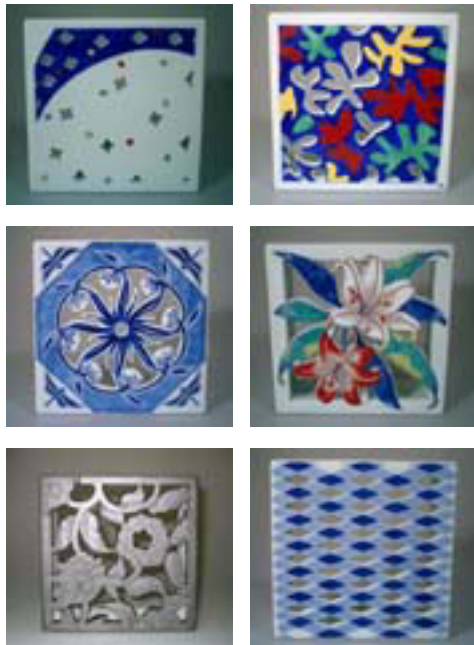
ドブラスト加工により装飾し、これを基に絵付けを行った。

・照明付き表札



エクステリア研究会メンバーによる
加飾の展開

・塀面スクリーン



エクステリア研究会メンバーによる
加飾の展開

5.展示会

平成16年9月22日～26日に開催された、第26回西

日本陶磁器フェスタへエクステリア研究会の製品開発の成果品を、(株)エクシス・(有)八重洲工業(造園施工業)の協力により出展した。展示ブースでは製品開発の成果を実際に庭のシーンとして演出したプレゼンテーションを行い、また消費者への調査を行った。



有田焼によるガーデニンググッズ・エクステリア製品のPR展示

(2) 女性の趣向性を考慮した製品開発

1.はじめに

21世紀は、女性に受け入れられるものだけが産業と

して発展するといわれるほど、女性の裁量権が拡大している。家庭内の生活用品等はおもっぱら女性の裁量により選択されるのが一般的な現状である。そこで、女性の趣向性を考慮した、買いやすく、売りがやすく、作りやすい小物製品の開発を行った。



2.製品開発の方向性

様々な生活用品、雑貨品をカテゴリー別に分類していくと細項目に、キルトグッズ・裁縫用品がある。

東京ドームで開催される「針と糸の祭典・キルトフェスティバル」は、毎年25万人を越える入場者数のイベントであるが、その大半は女性である。このカテゴリーは針・糸・はさみ・布というところが主力製品であり、陶磁器製品がほとんど無く、小物入れだけが陶磁器製品として見られた。しかし、このような小物入れは、汎用性がありキルトグッズだけのものではない。そこで、このテーマの手はじめに、汎用性のキルトグッズ製品の開発に取り組んだ。

・スプール・ホルダー



3.試作開発

・ピンクッション・ホルダー



(3) ノベルティ製品の開発

1. 経緯

過去、肥前地区窯業界において、庶民生活、風俗をモチーフにした古伊万里人形等多くのノベルティ製品が生産された。しかし、近年はノベルティ製品の生産のほとんどが、干支の置物、仏像彫刻、ミクロス等である。

このような背景と業界からの強い要望もあり、当センターでは、ノベルティ産業の継承の必要性を認め、数年前から製品開発及び人材育成を目的に、肥前地区独自のノベルティ産業の確立を図ってきた。

昨年度、大有田焼振興協同組合による、中小企業活路開拓事業調査・実現化事業『有田焼人形商品開発とビジネスモデルの構築』の中で、三越日本橋本店において、市場調査が行われた。この調査の結果、今後人形産業の育成と確立を目指すためにも、当センターに引続き技術指導、支援の依頼があり、ノベルティ研究会を発足させた。研究会参加企業は、有田製磁(株)、(有)しん窯、(株)畑萬陶苑、大有田焼振興協同組合である。昨年度の調査をもとに、人形で最も産業としてなりたっている節句人形(雛、端午)を中心に、昨年プロデュースしてもらった

(株)ワイズワーク 山内氏にアドバイスを受け、手ごろな価格帯の製品化、通販等販売も意識した製品作りを行った。(写真 1、2、3、4、5) この人形の製作中に、べんじゃら祭り実行委員・有田町おこし女性懇話会会長より、雛人形七段飾り製作の相談があり、当センター及びノベルティ研究会を中心に製作を行った。(写真 6) また、雛人形=子供と言うことで、子供用食器を提案し、べんじゃら祭り実行委員の女性メンバーとノベルティ研究会で検討会を行い、それを基に、お食い初め用食器、子供用食器の開発を行った。お食い初め用食器(写真 8、9、10、11)については、儀式用だけでなく、長く使うことを目的とし、子供用食器(写真 12、13、14)

は日常生活で使用することを考え、試作した。



写真 1 (株) 畑萬陶苑



写真 2 (株) 畑萬陶苑



写真 3 (株) 畑萬陶苑



写真4 (有) しん窯



写真7 子供用食器製作検討会風景



写真5 (有) しん窯

お食い初め用食器の開発

儀式用だけでなく、長く使うことを目的に開発



写真8 (株) 畑萬陶苑



写真6 (株) 畑萬陶苑



写真9 (株) 畑萬陶苑



写真10 (有) しん窯



写真13 (有) しん窯



写真11 (有) しん窯



写真14 (有) しん窯

子供用食器の開発
日常用



写真12 (株) 畑萬陶苑

2. 展示会

有田雛のやきものまつり

日時 平成17年2月4日(金)～4月3日(日)

場所 有田館

内様 史上初オール磁器製のひな人形七段飾り展示
女性メンバーと窯元のプロジェクトチームに
よって開発されたお食い初め用食器の展示等

出展 ノベルティ研究会

(株) 畑萬陶苑、(有) しん窯

有田製磁(株)

べんじやら実行委員会

(有) 篠原溪山窯

「有田雛のやきものまつり」までのながれ

平成 14 年頃よりべんじゃら祭り実行委員会主催でひなまつりイベント開催。有田町内に呼び掛けて、商店街の意識を変えるために始められたとのこと。核はなく、一応中心は有田館であった。11 社程度が人形を展示していただき、外に向けた PR はほとんどなかった。会議の中で磁器製の七段雛飾りがあれば、という声はあがっていた。平成 16 年 3 月に当センターに有田町に人を集めるために、雛人形七段飾りの製作依頼があり、この依頼を受けセンターで成形、ノベルティ研究会で絵付け焼成を行った。またべんじゃら実行委員会を通し、町内窯元に素地を提供。1 社（有）篠原溪山窯）が決定した。

この人形を核に、PR を行うことが決定し、鋳込み、素焼き、絵付け等の作業風景の撮影がなされた。

また雛人形=子供と言う考えで、当センターより雛人形と合わせて、子供用食器の開発を提案。女性メンバーと共同で開発に至った。



有田雛のやきものまつりポスター

展示会風景



(株) 畑萬陶苑



(株) 畑萬陶苑



(有) 篠原溪山窯



(有) しん窯



お食い初め、子供用食器



有田製磁 (株)



お食い初め、子供用食器

3. おわりに

ノベルティ研究会においては、年9回の会議を行い、新製品の開発等進めてきたが、節句人形の通販（家庭画報）で採用され、商品化がなされた。

有田町おこし（有田雛のやきものまつり）支援については、ノベルティ研究会より3窯元、べんじゅら実行委員会より1窯元雛人形の提案がなされた。

お食い初め用食器、子供食器においては、べんじゅら祭り実行委員の女性メンバーとノベルティ研究会、当センターで検討し、長く使える食器の提案ができた。

今回のイベントに対し、有田館の入館者数は3月15日で1万人弱の入館者があり昨年と比べ約7倍程度の増加している。広報実績として、テレビ12件、ラジオ3件、新聞18件、雑誌9件、インターネット2件（平成17年3月16日現在）の取材があり、マスコミの影響力がかなりあったと思われる。

人の流れも有田館のみならず、町内に流れ波及効果はかなりあった。人形を購入したい、カタログ等

問い合わせも多く、また人形製作を希望する窯元からの問い合わせも多かった。支援事業として大成功だった。今後来年度の雛まつり及び販売、製作について検討していきたい。